



## 特養 さくらユニットの紹介

こんにちは、さくらユニットのユニットリーダーの大石と申します。今回は土肥ホーム特養さくらユニットの紹介をしたいと思います。

さくらユニットはご利用者7名、全室個室で、土肥ホーム特養では唯一3階にあるユニットです。ユニットのフロアからは駿河湾が一望できます。

ご利用者1人1人のペースに合わせ、日常のケアや、余暇の活動、リハビリを行っています。リハビリに関しては、日常生活リハビリの外に月に2回理学療法士指導の下、平行棒等を使用し、歩行や立ち上がり等のリハビリを行っております。

また2ヶ月に1度ご利用者の希望を伺い、映画の鑑賞会を行っております。



さくらユニット 主任  
梅原 将行

ご利用者が笑顔になり、ご利用者、ご家族が土肥ホームで良かったと思えるようなケアを行ってまいります！



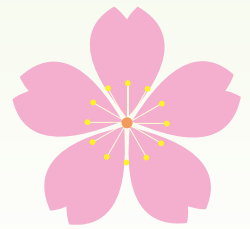
さくらユニット リーダー  
大石 亮太郎

ご利用者、スタッフの笑顔大切に日頃のケアを行っております。笑顔が一番！



斉藤 淳

ご利用者が毎日楽しく過ごせる環境を整え、個々の要望に沿ったサービスを提供していきたいです。



西尾 香苗

思いやりを大切にしています。今年度よりさくらユニットへ異動になりました。よろしく願います。



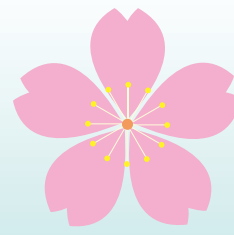
水口 朋美

ご利用者と毎日笑顔で過ごせるように、様々なケアを行っていきたく思います。



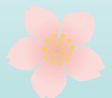
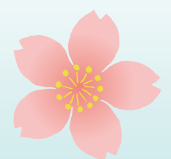
斉藤 陽子

ご利用者と共に笑顔でいられるように心がけたいと思います。



清水 まゆみ

ご利用者が安心して過ごす事ができ、いつも笑顔でいられるようなユニットにしたいです。



### リハビリがんばってます



月2回理学療法士(PT)によるリハビリの様子。リハビリと合わせ、毎日体操を行っています。

### 行事



映画鑑賞会の様子

寅さんシリーズ、幸せの黄色いハンカチ・・・次は何を見ようかしら～



さくら葉餅作りの様子

さくら葉餅を作りました！食紅を入れ忘れましたが、味はgood！

# 新人紹介

## 菜の花ホーム



介護職員

**五味悦子**  
50年ぶりに故郷に帰り皆様と一緒に生活する事になりました。皆様に教えてもらいたいと思います。宜しくお願いします。

## 特 養



介護職員

**大久保陽介**  
ご利用者が安心して生活できるように、環境づくりをしていきたいです。1日でも早く仕事を覚えられよう頑張ります。

## 土肥デイサービス



事務職員

**吉村由起子**  
少しでもみなさんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈ります。

## 土肥ホーム厨房



管理栄養士

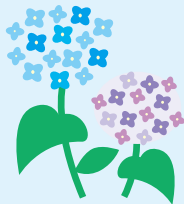
**松本三保子**  
病院療養食25年、介護施設で1年ご利用者を栄養面で健康面からサポートしてきました。皆様と笑顔で接し、積み重ねてきたことを活かし頑張っていきたいと思いません。

## 特 養



介護職員

**長島理保**  
介護の仕事は初めてのことでなので不安なことがたくさんありますが、1日でも早く仕事に慣れるよう頑張ります。



## 介護あれこれ 第4回 認知症編

厚生労働省発表の認知症の方の将来推計によりますと 65 歳以上の認知症の方は 2012 年時点で 462 万人。高齢者の 7 人に 1 人の割合で 10 年後には 700 万人で 5 人に 1 人になるとありました。「認知症と生きる」社会の中で土肥ホーム・戸田デイサービスの職員が実際におこなっている認知症の方のかかわり方や取り組みをご紹介します。



### もの忘れと認知症の違い

もの忘れ	認知症
体験した事の 1 部を忘れる	体験した事の全体を忘れる
物忘れをしている自覚があり 何かのヒントで思い出すこともある	物忘れをしているという自覚がなく思い出さない
いつも同じように忘れやすい	忘れやすさがひどくなり、悪化していく
日常生活には差し支えない程度	判断力が低下し、日常生活に支障が出てくる

#### 例えば...

お客さんの名前を忘れる  
買い物したものを置き忘れる  
朝食食べたものを忘れる  
お財布をどこに置いたか忘れる など

#### 例えば...

お客さんが来た事自体を忘れる  
買い物に行った事自体を忘れる  
ご飯を食べたこと自体を忘れる  
お財布を誰かに盗られた  
と思い込む など

## こんな時どうする？ ～落ち着かず歩き回る方の対応～

ちょっとここにいてほしい、と介護者が思っている時に限って、立ち上がって出かけてしまうことが多々あります。そんな時つい、「どこに行くの」「迷子になるよ」「危ないから座ってて」「出歩かないで」と言ってしまうがちですが、無理に引き止めると、別の困った行動に出ることが多いです。

認知症の方は、相手の言葉そのものよりも、口調や表情などの「感情」を強く感じ取ります。

認知症の方の言動や行動は不可解な事だらけで、対応に苦労しますが、気持ちを理解し適切に対応すると、悩まずに済むことが多いです。

### ★まずは認知症の方の気持ちを考えてみる。

認知症による障害で、自分の家にも場所がわからず、不安です。 例：「ここはどこ？知らない場所で不安だ。早く帰らなければ。」

今が不安なので、昔のいきいきしていた頃に戻ろうとします。

例：「そろそろ仕事にいかなければ」「買い物に行っておくちや」「畑へ行って草取りしなくちゃ」「あの子はどこ行っちゃったのかしら」

目的をすぐに忘れてしまい、別の目的が思い浮かび、急に行動が変わる事があります 例：「窓は閉めたかな。見てこよう。」「トイレ行きたい。どこだっけ。」

～ 認知症の方は、いつも不安を抱えています。

### ★私たちの取り組み

まず、歩きたい時は引き止めず、ついて行きます。斜め後ろにつき、つかず離れずの距離で見守ります。斜め後ろは、本人の動きを妨げず、いざと言う時に手が届き、本人が振り向いたらそこに居てくれたと安心できる位置です。(写真①)

少し間をおいてから、「今日は日曜日ですけど、会社休みじゃないですか」「○○ちゃんは、学校へ行きましたよ」等と**納得しやすい言葉**で、**笑顔でやさしい口調**で声をかけると本人が納得され、上手くいく事が多いです。また、「いっしょにここにいきましょう」「私も困っているの」「ちょっと良かった。私もトイレへ行くとこ」等と同調するようにし、本人の話を否定しないようにし、「ここにいていいんだ」と安心していただけるような言葉がけを心がけています。

認知症の方



介護者

写真①

# 日常のひとこま

今号からの新企画「日常のひとこま」をお届けします。  
様々なサービスを利用中のご利用者の日常の一場面を取り上げ、  
どんな風に日々過ごされているのかを紹介していきたいと思ひます。

## 機能訓練

(戸田デイサービス編)

ご利用者の希望に沿った機能訓練を個別対応で提供しています。日常生活(自宅玄関の段差等)で必要とする身体の動きの維持・強化を目指し、平行棒を利用した歩行訓練や立ち上がり訓練、段差を上り下りする訓練、ボールを使用し握力の強化や指の強化の訓練などをおこなっています。



石原 りつ子 様

「訓練を行って、以前と同じように歩けるようになって、歩いて散歩や買い物に行けるようになりたい。そのために頑張っているかな・・・。」  
「以前までとはいかないが、歩ける、足の運びも良くなってきた。訓練は大変だけど、楽しくできているよ。」



長倉 進 様

「今は散歩にも出掛ける機会も少なくなっているので、訓練を行って少しでも外に出掛けたい。今のままの状態をしたい。」  
「訓練を行って、すごい変化はないが、今の状態は維持できている。これからも楽しく行っていければいいなあ。」

## クラフト

ご利用者の希望に沿ったクラフト(貼り絵・塗り絵・手芸等のこと)を個別で提供しています。クラフトは手先を利用した作業をするため、手先の運動になり、細かい手先の動きの維持・向上につながります。クラフトは、考えながら作業をするので、頭の体操になり、物忘れの予防にもなります。完成した作品は戸田デイサービスに展示しています。



実際の作品

天良 ハル子 様

「若い頃から塗り絵をしていたから、人物に似合う服の色や背景の色なども考えて、服の色を考えているんだよ。あとは・・・この絵の時代の風景かな。」  
「一つの色でもいろんな色の出し方があるから、奥が深い。私は、一色だけでは塗らないで重ねて色を塗っているよ。塗り絵は楽しいですよ。」



勝呂 茂子

土肥戸田ホームヘルプ

平成6年6月入社

質問③ 介護に対する思いや理想について教えてください。  
やはりヘルパーは明るく・楽しく笑顔でと思っています。そして、一人一人の思いを聞き、臨機応変に動き、何か良い所を探してほめる事だと思ひます。

質問② 介護(福祉)の仕事をしていて、良かった事は何ですか?  
あるご利用者と会話がうまく続かなく、うなづくくらいでした。ある時、歌を唄ってみたら最後まで一緒に歌ってくれたり、最初は拒否が多く、すぐ帰って下さいと言っていた方が炬燵の中より暖かい座布団を持って来てくれ、帰りには「ありがとう」と言ってくれました。それぞれすごく嬉しかったです。

質問① 介護(福祉)の仕事をするきっかけは何だったのですか?  
私事になりますが、娘は生まれつき心臓病を患っていました。手術をしなければならず、手術には輸血も必要で、血液を提供してくれる方に病院まで来て貰い輸血をして頂きました。そのお陰で手術も成功し元気になりました。その時の皆様の行為が嬉しく思い、これからは、私が恩返しのため人のためになる仕事が出来たいと強く思ひました。



土肥ホームの星



土肥・戸田地区の人口減少と高齢化は深刻な問題です。ご利用者の減少と同時に担い手である人材の確保が困難となっています。また、今年度は制度改正の年であり、特養の入所要件の変更や伊豆市では総合事業へ移行されました。これらの状況を踏まえ、変化に対応できる体制を各サービスや各部門、戸田デイサービスも含め見直しを行い、より柔軟かつ効率的な体制に整え安定した運営を目指していきます。

昨年度、土肥ホームでは介護用具の床走行リフト等を導入したため、よりノリリフトケアを推進し、引き続きケアプランに沿ったサービス提供と記録の充実を図っていきたくと考えています。

戸田デイサービスでは事業別開催を目的に開催日の変更を行いご利用者の状況に合わせた利用を推進していきたくと考えています。

土肥ホーム、戸田デイサービスとも、職員のスキルアップとケアチームのスキルアップを行うとともに、人材育成と職場環境の整備、ご利用者の生活環境の改善を行いサービスの質の向上に繋げていきたいと考えています。

この地域で安心して生活できるよう地域包括支援センターとも連携をし、地域やご利用者等のニーズの把握に努め、地域の特徴に即したサービスの在り方を模索していきたくと考えています。

今後も地域やご利用者のニーズ把握に努め事業運営に反映していきたくと考えておりますので皆様にはご理解、ご協力をお願い致します。

土肥ホーム 施設長  
戸田デイサービスセンターセンター長 木下 高次

苦情相談及び対策 (H.26.4.1~H.27.3.31) (土肥ホーム)

No.	受付日	申出人	種別	概要	想定原因	対応結果
1	平成26年7月31日	ご利用者本人	食事サービス	①配食で届いた料理が献立と違う。献立を間違えないでほしい。 ②配食の味付けが薄く、ご飯のおかずにならない。どれも同じような味に感じる。ご飯のおかずになるような味付けにしてほしい。利用者が喜ぶ味付けにしてほしい。	①ご利用者に配る配食用の献立と調理職員用の献立に違いがあり、結果としてご利用者に配った献立と違った食事を届けてしまった。 ②調理過程に問題がないか、検食者や他のご利用者へ異変がなかったか確認する。調理過程や他者から異変は確認できず。	謝罪とともに①については、事情説明と再発防止に向けて献立作成手順を見直すことを伝える。 ②については、聞き取り調査では異変がなかった事を伝え、今後調査委員会を立ち上げ同様の訴えがあるかどうか、また調理過程に不手際はなかったか、再度詳しく調査し、その結果を報告する事を伝える。
2	平成26年8月20日	ご利用者家族	菜の花ホーム	8月17日菜の花ホームに行き、入所の状況を確認したところ、入所の順番が申請をした時には2番目だったが、現在はさらに遅くなっている。介護度が軽い人から入所させている、退所した人と同じ介護度でなければ入れないとの説明があったが納得できない。入所の選考基準を教えてください。	以前、入所判定会の結果として、転倒の危険性が高くグループホームの生活が困難な状態にある旨をご家族に伝えましたが、ご家族の強い入所の希望あり。そこで今後状態改善がみられたら、入所できる可能性があることを伝えましたが、その際の説明不足により、結果として誤解と不満を抱かせてしまった。	入所基準や判定結果についての、説明不足に対して謝罪をする。グループホームの性質と入所基準について説明し、入所判定結果を再度丁寧に説明する。
3	平成26年11月27日	ご利用者家族	菜の花ホーム	利用者本人宛にきた、郵便物を開封した状態で渡された。開封しないでほしい。個人情報の取扱いを改めてほしい。(その後の対応にも不信を抱いた。)	ご利用者本人宛の郵便物が、菜の花ホームに転送されるように手続きがされていたが、その事を知らない職員が、菜の花ホームにきた郵便物と同様な扱いをした結果、開封してしまっただ。 また、そのことに対して謝罪することなくご家族に開封した郵便物を返してしまっただ。 さらに、苦情対応についても、ご家族の期待に添う事ができず、不満を抱かせてしまっただ。	ご利用者本人宛の転送郵便物の取扱いについて、内部研修会にてすべての職員に徹底する。ご家族に対して、一連の不適切な対応にたいし謝罪し、再発防止に向けた対応の徹底について、ご家族に報告する。
4	平成27年3月16日	ご利用者家族	菜の花ホーム	ナースコールを有効に使えるようにしてほしい。緊急時呼べるようにしてほしい。	ナースコールがハンガーにかけてあり、使用できない状況にあった。また、なぜそのような対応しているのか、事前にご家族に対し、詳しく説明をした職員もいなかった。	対応の不備及び説明不足についてご家族に謝罪する。対応の改善について、内部研修会にて検討。現在のベット配置のままナースコールを使用すると、転倒の要因にも繋がる為、再度居室内環境を見直し、ベッドの配置を改善。ご利用者にもナースコールの使用ができるよう、職員は練習を支援し、全スタッフで対応を徹底する。

編集後記



新緑がまぶしい季節になりました。

今号より広報委員会にも新メンバーが加わり、パワーアップしました!!新しい風を皆様のお手元に届けられるような広報誌「はまゆう」にしていきたくと思っております。

また、今まで「はまゆう」は年4回の発行でしたが、今年度より年3回、5月・9月・1月の発行になります。今後もご意見やご感想をお聞かせ頂けたら幸いです。

松本弥生